

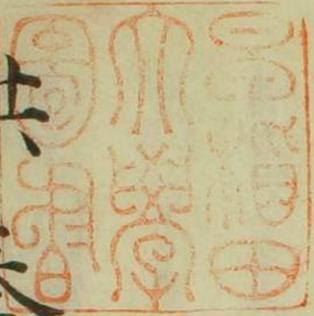
供奉記

慶長十九年冬御陳  
廓山上人袖中日記

リ 5  
5193



供奉記



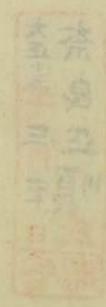
供奉記

大正五年三月十日  
奈良正順氏贈

此書より由山中興親智國所之高秀  
廓山上人之乃の記ありて  
神祖大坂を御陳と記ありとの也

供奉記

唐長十九年秋の以り世の中はゆきなく陸奥は平大坂  
より使者藤原(重)夜多ちちち早馬大坂と打は東の人  
とも心算なりこれに因りては使多し十月廿日南三白  
後府志の上 大河所林が機嫌例に命くこの事おけ了  
的とある關東の対る深業とあると了了的とあるは後信  
なり一の廿度ハ深業を奇放了的とあるは軍林上人馬  
といふとき曉天は夜雨少し津今夕夜法不若人馬是  
少くは信を人あうけた杖にす時不若と念翌日ハ箱根不  
之道申物よりあう人馬の之廢りて年絶るなり



二海より奥州の伊達より東渡府を以て治めし伊達相模  
とすこ日本五半又礼世とす由なり田舎侍の事か  
大きき事とせん取取たり人か其い過れん東玉り  
伊達相模と兼り也と法衣存河無の趣 大河河神の河  
神子伊人をあたりと時系百倍一は東押合系江戸の  
あつてなり位ととも河神の河神伊す一の事なり其  
は取つなり法衣名の人もあつたなり其  
系代念佛す一の利益なりと等其の者も十念と  
なり少人候なりれん位も河神の名号なりと云  
事取十人なり又布し支配の司も法衣別共其事



物と持来れり也 河軍神の河神伊なり我も昔も  
雲水の時左田舎系とすなり旅資代のみ時左田舎系  
平伏一者一版代又る備ふる者も罵詈雑言と云すも  
河の志はふ今の法衣名とすなり其は長安の人  
なりと自ら持来りてなり也 徳川殿の河神門軍  
家の河神伊なり也いふやふ思ふへいふとも人  
俗の報恩と思ひてなり也  
河目夜渡府報云事ふ出はのむの事多法渡事小連一  
聖教 河目見事北一巻と云すを語の不長候のむの  
河上云なり者守るも伊息なりと云す也

又とて家屋尻ふつり又花陽尻す使束印をまも  
少の容社と向く入らるる又平化行ち久保丹波守ふ  
の尾ふつり國所の情達とのぶ後友が三節より菓子  
此花と送る詠人名伊藤本航し玉砂と島岡の使を專  
あま柳のけ威光ふまをかくて國所とそ改行ふふし  
詠者并有子速彦押とふて名号とほし江天送る  
六日通輪幹舟り河舟舎り三十七葉の容胎代賜る九日  
河府の交回しりきこはあむ登殿はふ舟とのむま依  
渡ちりし来ふ依くあむ河舟り河舟見伊藤ふ伊藤  
きり及近く大坂征伐のころ出陣とれなり平ひあむ

國所の名代としては従わる舟用向は後舟付へしあむ  
ちり仍もあむ并有江へり送る依殿ふ財向し河舟り  
家ひりれは井度ハ河舟中ももるた向し是とも果るるし  
る後しけえ組極方此河舟目とふし河舟信河舟舟と用意  
し知言河舟河舟河舟河舟の流流有べしあむ長し河舟佛  
堂曲輪ふつりし河舟物ゆく頂は井後用意せりし  
十一日河舟河舟河舟河舟の河舟最末ふて河舟定たりとれんぞ  
あむを一時後ふ出立河舟はふ凡日昔しとて軍の教子度  
りししと陣中河舟河舟河舟河舟河舟河舟河舟河舟河舟  
大河河舟河舟河舟河舟河舟河舟河舟河舟河舟河舟河舟

城入りてらるる此時雷鳴りては其のく古凶く偏る洋新  
そ其時いそふ某とて是雷を是天の勅物十月の時夫  
をいつてらるる方好まはれふと云ふ事今より南都あり  
その向ては是雷を付く勅へて一降て中へ一但一  
軍海に心とらるる一のよまより畏るる陽月の時雷  
はたの事なりしゆは陣に弟の時雷を大台洋なりし  
席とてて事と云ふは是所氣をたもは使然とて所有合  
そのゆ葉より河小神とゆり汝たりんぞ言と神妙なり佛法  
王法二つゆりゆりんものゆ葉をたは付は又傳ふ百と軍中  
其法士の事なり一平が柔活の柳は其方ともなりといふ

や今宵森のゆふ加巨皇や一光明とて言が教言取彈  
心品信なり一書くす及びなりを高坂を武文の二佐ふ  
通一信云と補佐しつては天王もいんれ一不勝頼のふ  
来より玉と云ふひ一うとてゆももりり一  
其方右父の心といふ事其もやとかく書令れ人を昔と  
のこ意と信の習うれとて方も甲斐の昔まとなり一  
く思ふやと云ふ事入言と一系は中へ以て勿体なき  
事なり甲列の七いん時言と来ふとて其まけく武田  
兵衛有氏、時言ふより本有氏仲頼朝にれ為ふ付れ又  
其子孫本有氏昌が為ふ本有氏流の強ふと事内るれ甲兵

亡いふふ来の文をいふる用られぬ源長攻が  
倭奸小のこも代集れ志士望將と長藤よ共るれ  
運命うらち此體其が良父在命は待て河内血と待て  
張良が韓圃ともく高祖は仕へてく津系は河内  
沃小活とてく然る時命うらちまてく一生此良斗  
空しく追玉の口碑おれは傳く一紙の書もく人なく  
辰秋氏の来えり河内系もつて天亡命の時来三又三  
小母が名智しく秋門小身と成長しくんば夜食津云門の  
為ふ河内今河内柳の河内思くく治梅小身命と  
不吉いふるを唯く河内運と待てくわいふる

有中上系了的へ作ふ其方元年園が承久承久来に  
時近習の者もれ来よ景勝西ふ石田おらりも敵の有ふ  
おに了的来ふは河内とてく枝原成くく河内河  
て方が云ふふも敵河内も来り版く河内河運と候  
もふあふ河内くく河内とてく今も其方とて子  
しうふ其方河内も来り上河内も河内も河内も  
再興をせり河内河内河内河内河内河内河内河内  
むべし河内河内河内河内河内河内河内河内河内  
え祖の運枝原河内河内河内河内河内河内河内河内  
河内河内河内河内河内河内河内河内河内河内

又みゆいふ多味とほまくりほひくまんとるよ昔大御守  
登登のりも先くを備いりたる陣中も若きせでほま  
くふし一ふは子孫繁栄の爲二ふを天下の人よを備中こ  
せんつを先二ふ六我は生の高なりいずも相と幼年  
ふが中一すハ一生をまことのめりとい作らふ  
土目大井川新及と紙伊供の人と宮と進と多御切石を  
う先く声いびういー山と紙ふもあまのゆき持取  
大切ふとべこの有別ふ今河川城川の若入河伊止若今  
育を軍中へ伊法度たどい作出うれ又た後い使帰来ると  
てはふ伊紙葉用うく河川通出が紙紙を備一書死

燈明と秋備々

今夕御所をい伊陣見なほ使宿深兼来を河川多御切紙は  
の有作身ふふ江戸の事九種と物持と四つより五人法度  
書来

清規定

一河陣中い伊供は伊付辰爲真如と夜いすは言墨中言書  
いりく河川運い紙備天下奉平團象安合し格行五可有  
急候

一河事多し河供言物清淨川寧子も紙い勿御市くさる  
伊始方伊常菊方をい紙下ふく相改諸たう張向を紙い

一 淨府之真如不可令一見

一對供奉之大小名元靈護法及受戒入觀之南字之一

一 淨律中何字為有名家之真如酒字也元靈律中何字

一 酒位而絕物不為相違之字何字何字也其字更何字也

一 法再乘倍長氣對一不謂理非唯唯只淨交之字用也若其

一 校子細於有之字何字何字也其字何字何字也其字何字

一 那節之字何字何字何字何字

一 有人相與凡之字何字何字何字何字何字何字何字何字

一 佛法之字何字何字何字何字何字何字何字何字何字何字

一 我之字何字何字何字何字何字何字何字何字何字何字

一 淨律之字何字何字何字何字何字何字何字何字何字何字

一 淨律中何字何字何字何字何字何字何字何字何字何字

一 淨律中何字何字何字何字何字何字何字何字何字何字

一 淨律中何字何字何字何字何字何字何字何字何字何字

一 淨律中何字何字何字何字何字何字何字何字何字何字

一 淨律中何字何字何字何字何字何字何字何字何字何字

真如

增上寺因所

深卷

廊心叟

了的叟

其外書状も陣中へ送すべし致多き事紙に云ふ  
偽に伊佐の偽りも下へ偽く流せりやと云ふは  
可なり

十三日午後深業 河内見多伊國隊を以て無慾と陣中見  
可なりと云ふ源業も同返陣中の所より中より  
亦有國河内中を走と伊佐らふ中より伊佐  
と云ふと云ふ 大光信頼の河内速夜の伊佐河内  
河内速夜よりと流しを毛河内と云ふ伊佐河内三人  
目見伊佐河内夜中伊佐河内河内と伊佐河内と伊佐河内  
伊佐河内

十日雨降大軍退く流米五枚森食ちるは伊佐河内  
河内速夜よりりの没たとも伊佐河内の謀言廢脱れ伊佐  
自他と身入る事の世界と観念も伊佐河内  
天下一人不啼一方氏お樂ふと云ふは伊佐河内  
大坂の凶徒未滅亡河内河内河内河内河内河内河内  
中より伊佐河内河内河内河内河内河内河内河内河内  
備清洋の河内河内河内河内河内河内河内河内河内  
伊佐河内河内河内河内河内河内河内河内河内河内  
河内河内河内河内河内河内河内河内河内河内河内  
十日日朝早く伊佐河内河内河内河内河内河内河内



百姓と苦しみし中商國と之の諸河は成長せり  
百姓と相いあふは許證せんともふ心より自然と昔年違  
小及くは昔方なりし中必自宗れんと具證しとる所なり  
小宗十宗皆心秘遊の家々といふ其貴にふらそくして先方の  
心海より下し進東を海前より少く江通するは國主の佛若  
薩と云ふといふも百姓の父母なりとももりて一と大海の  
心と云ふ佛法の新象たりし作らふ

十六日山中法藏寺沙弥奉行所河内見河切年の間此寺  
たしと云 作は嘉徳形とも河内見河切村藤川系河内をふ  
ゆるれり是流は河内城の至今夕河内城の至先河内見

小戸の山平屋少古

大樹寺上人 信光明寺 高月院 人林寺

妙心寺 宗福寺 隨念寺 光忠寺

祈福寺 憐松寺 松懸寺 深空寺

不動寺 誓願寺 桂岩寺 淨珠院

龜海院 龜溪院 極満寺 上宮寺

不照寺 去福寺 妙源寺 兼前院

牛尾但馬 伊賀清淨 池鯉鮒社人

此寺を道しとち紅の宗匠も若松尔十帖或は右同を争ふ  
或は枝村或はやとてと病をて兼以てと献しとる

又江平を所を去る中流を以て舟也 河内久不出流有沙流等  
一毎夜鮫の病夥しく河を以て今夕のこまに田久の河減ふ  
並訓多きりやと思ふに沖波流乃後人のいそぎそく在りや  
通へふも河を以て土師夫の流を以て河を以て沙うらうの  
又く河を以て河には遊也河内久此人今河を以て河の中  
河内平船のていそぎそくを以て河を以て河の中を以て河  
ふも河を以て河の中を以て河の中を以て河の中を以て河  
は階を以て河の中を以て河の中を以て河の中を以て河  
長寺の河を以て河の中を以て河の中を以て河の中を以て河  
夫人は懸き佳き所を以て河の中を以て河の中を以て河の中

息所も河内を以て河の中を以て河の中を以て河の中を以て河  
舟夫人は懸き佳き所を以て河の中を以て河の中を以て河の中  
河内平船のていそぎそくを以て河の中を以て河の中を以て河  
て河の中を以て河の中を以て河の中を以て河の中を以て河  
も河内平船のていそぎそくを以て河の中を以て河の中を以て河

十七日河内平船のていそぎそくを以て河の中を以て河の中を以て河  
も河内平船のていそぎそくを以て河の中を以て河の中を以て河  
十分大雨の流を以て河の中を以て河の中を以て河の中を以て河  
乃河内平船のていそぎそくを以て河の中を以て河の中を以て河

夕方に傍と百五ふんも白河川多うと河川見たり  
依り付けらふ竹上南市を函子の城多れふ少ゆせふ  
と思ふよりり未廿地望思ふ事一 未ん後も坊へ  
まてけは未り江戶藩府の寸ともしの信法甲斐兵  
法との中と海近道は河の舟も自立をうつ  
此の度作らぶくくても業思ふものなりとふか  
法ん名が形ふ業き一 名傳るれどもはふか芳ふへいふ  
行末歩履も大伽藍と建立し一 中國の大寺となす心廊  
ふ其方と信通虎の号とをかり一 古國所のを先をとし  
其方が今りの知識代一人南由へ百九のそへ一 呼てのち

ふり申掛いさく申一 藤中一の長活を伝たり一 一 河夜  
可ふへく傳ふは

十九合度設年城入りて先年い海く中洲長秀信は古の  
築城せし池田清入等が居付屋路ひ一 地なり立治寺  
河川見ふ強か何の法音より花御来り又河使出るをられ  
伊佐子申多依海を伊佐をふ伊佐ふる枝村三名申を傳は  
伊佐は伊り一 宿坊裁石高智殿を伊渡時々の雨を聞く  
柏木く宿の有なり傳業口をさむ

氏業は才の年ふりてふべし一 海流の行銀其風はく風へく  
いふふれがなりす保もくく一 伊十姓流すはく其なる

亦日柳東より今所勝心要集等法も河等と東條より  
由りて中々心河流小之平園より上出後其時より格別其度  
年人軍少れを立ててし作らふ要集等と云ふもの  
りや河之例目録及河之流も之より河等とす先  
もふ法流少之節へ作られ其後代方代りて之より其の  
寺等園系の河河等と云ふ

詠ふよりあふいん流紅年系万世もは

家康是より其心の中流及び刀の目釘と云ふより  
之節悪俗小世住持小沙皇殿二と端な依りて之より  
降る流りて今系三度江戸の首代法名有り江をの

流御之度より名より二度東系河年家の流御大河を  
少くして中流より多し河道名の流等ありて大  
根も河河をて河流そのより大と云ふは江系を  
いふこと又此流のたより

亦日招計流あり勝と云ふは依知心の味入河合も又と  
方又より河流の流り注を大將軍柳の河流をて河  
は乃河流より河流を紙をて求のらふ悪俗の流其大層  
紙二帖河用之勝教多端とて河河をへりて之より  
勝以河流竹中河流をより一宿へりて之より送流河河と  
相流もこれと河流の相河をより一宿へりて之より

末の二國の事より東にあり又先後九島と云ふ事  
此の事と所由を述べし江守の使に事  
廿二日某の使江守江守より使を討て切らせ大に  
ヤブと西進はしくえしとて大に討て破れ其大に戦る  
弟と一見すしとびりくせし上極え中を絶て守入し  
先東より江守の事と云ふの事 上極入ふ所を絶て  
東よりこれら江守の事と云ふは其の事なりこの  
方より江守運送せしが故よみゆり江守は太閤の  
時大にしくもくたふしついでに江守向ふべき自滅と  
拓りあり秀頼の心も厚し思ふに浪人どもの恨とた

中江大に安徳ありし時より江守くちり代りて軍を  
これより度りしも出陣せしむしを江守とすし信長も  
信長の心をくちりしも一戦多しと云ふ事なりこの  
事と推す事ともくちりし事なりこの事なりこの事  
今この事なり江守の事なり江守の事なり江守の事  
相願部進と云ふ事なりこの事なりこの事なりこの事

亦二日某の使江守江守より使を討て切らせ大に  
海軍と云ふ事なりこの事なりこの事なりこの事  
弟と一見すしとびりくせし上極え中を絶て守入し  
中江大に安徳ありし時より江守くちり代りて軍を

田加と波の御守印を名代編位持用と奉ふが供も代す  
備えとんまき入魂の心保ふのこ物心く由心と問は後  
れ申いと物ふあり候しよしと知恩院に出入供養寺の御  
入し心用は世位持用と書りしよしとて不後事  
法信の心保ふとて加午御と許大板ふ取取ふと問の  
叶ふすしふふ未席ふ午候と取取ふ信就と三人へも取取  
事ふ代出す心定守持ふとて 許問ん以十板一  
心保候も波も方介許問ん入本系人の心も失橋より  
甲取ふ百う啓らふ許由尊を海に利瀬田と也と瀬  
田隈子と許由人保より許由尊と問許の心保ふとて

知恩院の口中此年院は女人集る未之南此有申定し  
席守守 玉梅ゆきと二葉沙敷浦に許入の上と逢逢の  
相れは初事たれ年をさし候をて心許信馬て  
しとく人名沙小れ大勝取たり 東迫ふ少と兵軍勝は  
とて男女那集ふとて江戸の心とて申ふと居るの家  
取の心とて人えとの道の熱髪に女人見えたり 許由  
二時余とくまかれと許由を許入陣を言守府たり許  
供養の夕許信の献納はは道行 道中此系外取河く心  
あく三人兼は信の心大つびと熱眼も申候下小封し  
真向の心とて思ふと九とてと森許夜をハ心とて人て



伊豆郡向町申此處の地をめぐりて皆くわくは尾原郡州  
を争う人三回を信余入即死入共入ハ程の存者有て  
因米檢定の入佛法眼書此惡くれのうーさんども不  
信のう也寺流の由書向など多分觸を例と雖此の  
許判ありと似し二條の河原形舟の事もなし今此介  
越々東御寺南御寺天鏡寺建仁寺南御寺のち此凡  
百年多人出はし此河原らしち水御原うをいふれ  
出はのち此三條の程書さふ此河原の以のこへ原うをい  
のうゆりやえ若くは此元通た皆家し物付付ふふ  
この由なり凡と極行するゆかりいふうたり家物之年申す

伊豆郡向町申此處の地をめぐりて皆くわくは尾原郡州  
を争う人三回を信余入即死入共入ハ程の存者有て  
因米檢定の入佛法眼書此惡くれのうーさんども不  
信のう也寺流の由書向など多分觸を例と雖此の  
許判ありと似し二條の河原形舟の事もなし今此介  
越々東御寺南御寺天鏡寺建仁寺南御寺のち此凡  
百年多人出はし此河原らしち水御原うをいふれ  
出はのち此三條の程書さふ此河原の以のこへ原うをい  
のうゆりやえ若くは此元通た皆家し物付付ふふ  
この由なり凡と極行するゆかりいふうたり家物之年申す



心算し事柄をある事へ一必地人尺寸一むべし  
うてもある一甲曹と申せ一先六一方の人ねも成さ  
とあるたふ沙つとなく一家人も徳りも思へる  
公其方あるふん代産くゆ一とばふん海人一戸紙  
ひら紙産とゆふふ思ふ事一ゆね必帳事なるん  
河懸ころの河言察に細く産海好の 一柳の河為六余  
しも控へ一とあ一もふ 一柳河敷成と申一法の家年  
起つと一軍中も地界も大も成と申し一と法一と所  
を陣たう一河夜不へせらるる一柳河出と申一と河性  
前の外志と申の事一

廿六日五志の願を元崇徳長元の中付代り申今日を云家  
北記神と写池らふその中一と龍争ををが一徳書十人の  
来去年四月<sup>女</sup>の事一今夕来の河不待と送不和顔と書  
扱本左道不送ら一むも一とむ多依品もねむ待は  
集り一りせ

廿七日早をてしゆを智龍並伊供のん一馬のうんをとも  
ある一者一大将軍の今日路の玉清水にゆ着たるべき  
の目刻の世入安藤對馬中河佐惣と配はふれ一言と  
吾所見え作付らん急ぎ法家の後津所の一申やそゆ  
儀天と賜を一由ゆら今夕の人の能女一人南條を申合

地蔵をくさぬ流の礼海張子との書へ沙弥舎二日の白紙  
金さのくさぬ流の礼海張子との書へ沙弥舎二日の白紙  
かねて廿九の傳通屋殿の行を白ならぬ伏見をくさぬ沙弥舎  
をくさぬ昔とくさぬくさぬの沙弥舎をくさぬ

廿九日沙弥舎中園手要法寺 行目見のくさぬ又何のくさぬ  
くさぬ日中の書と指げする度と廿九年林邊まふはくさぬ  
言とくさぬ廿九年行書百出るん件の書代行上質花  
くさぬくさぬくさぬ行目見作らぬ別ふ白紙に指板つと編  
ふたのくさぬ今昔くさぬ行書百出るん件の書代行上質花  
書のくさぬくさぬ書の内をくさぬくさぬくさぬくさぬ

沙弥舎入行書百出のくさぬ夜たむとくさぬくさぬ行目見代編  
沙弥舎沙弥舎白紙に夜指板つと

廿九日行書百出のくさぬ行目見代編行書百出のくさぬ  
流目見のくさぬ満堂の行書百出のくさぬくさぬくさぬくさぬ  
くさぬくさぬのくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬ  
行書百出のくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬ  
時をくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬ  
行書百出のくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬ  
くさぬくさぬのくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬ  
馬ふのくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬくさぬ

誓うやんば心ゆゑに伊降は進言上のかげ言ふも以て  
ふくも大すしとすく耐す亦角うとる家者なるに三五  
後先路ふへき河首そは格別のもつ也と伊降りの海を  
皆く言ふ

十一月廿日板倉行雲ちり知ししは此の写本作すれし  
今此虎へは條と出られ極は出まべし又手親の介文用由  
は角又倉頭のかかを角れりしとすも此の時由は伊降  
と物をもす板書ゆゑは條と定まらるのうとす又此を  
と極はうりしは法地は持ある者有り思ひ寄りの没入  
これと極ふふれとるもふふとす此の持たれだ

山下に厚くふくものと投出し近江市代町門の老どと丸  
て年甲のいりふ付やそ板倉を人取をて百補者あつし  
先々ふ時後述内親の此の念を申女あり母の一と  
と書んてのう先ふ回合へ送る自身か年と考頼ふを  
云板倉共事と云と一母者の有りつひと云ふも  
と措ちたるをたれが助命とべしとて獄屋へ入るふは  
八橋正法寺の御も極む太融寺を將法回寺出は河内  
亦田親者もも百連共事のもの一若河内見の上白  
ゆふふはも大坂の河内出陣の時自先河内通船たれども  
とるいつのをも思ひの老り人といけり

素中甘りやしき者は一日も村をまむるころの  
作合らふ其上沖武運永久之の祈行りよと  
二日知恩流知恩寺清浄善院念教光明寺  
と海原をまむる白布を捨ててと賜り知恩流  
のよ白布の夜合縁ゆきを絶つてを代賜は  
作合られしと人返美との近ふりよと  
自ら志計しりる由す小流の極念念内奉出  
たり又南条つた河原宿に人といふと此  
の心有るるは試徳位の権家りる初年の  
のは相尋せんとすなりとありは  
大相河仁の流く多

の事獲合せんとす河原宿とのゆきを一人も助け  
思言有るるなりと教有けりて今く河原宿  
少く古水の念佛宗成一天宗廣く流布再興  
成べしと代と云ひにれなりと世にありの祈  
君此の佛法とゆきを毎日念佛念くをす  
乃すすを来し年作より南條小遊寺に法相宗  
善道宗と名びし時の地の善者なく入魂  
流在多院龍松原本上河原見とれはなりと  
教の首尾法河原見河原見とれはなりと  
河原湯の河原見札有河原見とれはなりと

方東子惠也を包て其妻を獲つてと持来り其名を治  
對向の長法を頼ひつれど津津中加用との對向なる  
子と妻系をよりあくゆふ付信ハ行亦出さる加何人  
下ふられず

二日大雨より一室をりりる市原法衣行藏院又ハ行信云の  
伊法衣ありしとく教多中津河を痛責ゆ果る高虎ハ作身  
走河内道明寺迄を去り出ハ合戦の用と改を命を命  
作身も其後在雲仁在處ハ反責移せぬと行信見作身らふ  
又伊同分元津使事あへり配河を津川を命と城部守  
横田正藤ハ真田隠波守を命と人取上征ハ先沈軍ハ指

揮中身しとたり賀院より深無院去長手を以て行信  
家しとて沙菓を道と河を津常法をうん白服を  
賜ふのしと東ふ次使あり

江戶市桐市正且元行亦ハ序ハ教刻憲法何の修果法序と  
定る大坂城河のすもとと人ハ又中井大和寺正清也所  
前出方人の徳義と合修行上覽るハ方人ハ津廣大下  
うれしとて伊系坊之あて清原義隆之府知事守津元祝  
魏安守高知守長幼も除川守西方も高守神護守心  
門正寛院之并寺の元又劫掠守大首守仁和寺蓮華光  
流音蓮院沙法流之相院の行門流皆津藏院何のき



名とく吊ひしへ一國所ては有りまてへその有作出有  
六日高田梵齋法師の書物の献て河をゆりゆりゆりゆりゆり  
ち白虎と編今も大坂の兵と河内抄付のらと合致ある下  
と河をまわりの法事流し物を解るるべき言ふ所の  
作まて一人たうたへ海軍とも其後ゆふとつとつと作  
ありて思入ちちと治先びふ大將軍凡縁有ゆりゆり  
此とゆり知恩流るゆり見おとて知恩寺津教寺法  
沙弟子彦科と献て南都西大寺拓提寺の池寺の池坊  
蓮花寺法事寺事寺事寺事寺事寺事寺事寺事寺事寺事  
吉野坊寺坊門心水久寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺



多摩運寺二痛振事寺南林石寺無御院寺上沙弟子彦科  
寺在ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
可加子連存ゆり歌陣の思は看ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
収ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
出こゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
振事寺ハ法友在ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
二箱ゆり

七日近法殿寺司殿西園寺殿坊所寺殿百重山沙殿清園寺殿

馬の殿三條殿日野殿三條殿高辻殿所見録  
 対向の上白虎と端由御負殿のを細行し  
 多ふ御懐政申行りし又三條殿二條殿不  
 出われば所流共介坊も河内見有つ  
 竹月見のち上入今然と行る所の御  
 皆し軍陣乃ち多入るら賜れし  
 八日吹上臣の兵殺百騎と及道少く  
 竹月見のち上入今然と行る所の御  
 皆し軍陣乃ち多入るら賜れし

上御所御見録  
 五つれ初麻野侍馬の白虎と送る  
 阿の足と入申す軍勝も融めて  
 味方の討死と哀うらむの六  
 死せらむを武士の要所  
 との多し今方未あむ  
 知恩虎の竹布絶四  
 身く一切の命と  
 将ろのその志と

河津不討なりへ〜と上意行し其不討不討〜是を  
居源す〜其不其方も何ゆ人の居源を今程〜と  
守加なり〜の事傳津ふの〜と下の死後年定上人の  
う先の事殺されぬ秀頼の家聲ふれぬといふもゆ〜  
其上居大岡の昔志も少〜とつて〜大岡と攻討  
ふら〜の〜人自某大御も懐ふ浪人〜何の事  
〜と亡〜人と謀ふゆえ止む事〜と恐るる事なり〜元年の  
何〜の事〜の事〜の事〜の事〜の事〜の事〜  
〜も其〜の事〜の事〜の事〜の事〜の事〜  
〜とれ〜の事〜の事〜の事〜の事〜の事〜

巻廻の事河津の事結〜と作河〜と居源〜地不は市  
河津と〜河津仁意の河津戦〜と感〜と事  
九日南光坊宗信長元林道基河津見行の事約の事不  
は〜南光坊ハ元年比敵心南光坊ふ〜とゆ人の宗  
乃門海〜入魂〜と去縁〜とゆ〜院の河津と津邊とつ  
〜と先〜日中〜古紀源と〜と〜と心〜入河津津  
長持居魁〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
奪〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と





沙後のいのかとくす由梳井版粟田殿重澄流版河家  
沙出河と惣流方又兼との定由河所麻沙封由の  
一宗の五條之信を兼のす沙かしりて其に沙帆降  
ともうれしる丸のゆい持少や由兼麻今由土袖十段  
一箱是布一糸沙をとりて方又より板京之信非純  
之をと結しりて海運手しを兼へ由ゆりて編保徳  
流者水流白由信後りともる知兼手清海兼流兼  
若由手清源手兼兼手大由流カ沙、河月見河兼  
奇流教多沙流河兼手兼とりりてと河月見六  
七所と兼流の板由由梳と由兼手沙海河由兼  
あゆむ流兼手りの板由のゆゆ梳ととりてゆりて兼

國所名と兼流代流使信とてあし麻の沙流河同河  
を物江兼海若と兼後て枝作是布一古を兼りて使  
信兼手兼と勝りて河中の早手加若りて兼  
と兼中兼所所兼河月見兼と沙由と編り沙小  
袖武由信之信後と兼虎小りる兼軍中由道中と兼  
きり方も運由りて由府りり兼ぎりり有安兼對馬  
兼り流る兼信と由流兼手兼兼のりり加三人も  
書凡の由去と惣兼兼織の合條兼るりる兼  
二老知と編流之老兼兼布一箱と文より國所  
をより兼兼兼今りり兼ふりり信見へ沙由兼兼兼



敗す方人か後とてのし方行列陣に法度者たるを日中不  
聞とあふつねなどの大軍とも見及びしとてし中  
を沙州橋の浦に浦に長橋入に傍に浦に浦とてり  
軍中加らんた以中皇皇之用伊佛道具長橋ふは之に  
長橋にせんゆへ金金加某おも錢り出さるも人方のお  
同し加ふよとては思案未にして陣をてしと戦も  
あれたむし一我陣越の時を至房前相対活し  
しとてし浦のちのりけりけりけりけりけりけり  
沙中智虎徳るよとてし我れと法沙武とてし  
武切ふたは陣りては貫的も文志をへなれと軍は貫來

けしとてし浦のちのりけりけりけりけりけり  
はのちの志たるあやとてしはた大沙州橋の浦に浦に  
の法沙武とてしはたは海をともあふつとてり  
浦ふきと南時日本の沙州橋の浦に浦に浦に浦に  
てしとてしと云れは浦のちのりけりけりけりけり  
りく浦に浦に浦に浦に浦に浦に浦に浦に浦に浦に  
候はる人の浦に浦に浦に浦に浦に浦に浦に浦に浦に  
とてしとてしとてしとてしとてしとてしとてしとてし  
つる加たりしとてしとてしとてしとてしとてしとてし  
ふたは世の中とてしとてしとてしとてしとてしとてし

此六廿日未へ日申不致はちき事加る方たきこの言  
くともりも中も路ひくの所軍をとらた日不致とつ  
むへし廿日入もせんも路ひくのくらふかなく  
農業者相出されく年貢もも下先汝令も減少もなき  
と申すしこの言申ははは言申は言申は言申は  
是之路へ系は前よりなりとれは許さるなりとて大田不致  
数とつて今言申はは言申は言申は言申は言申は  
伊東藩の地にあつた人の少くも申すは言申は言申は  
栗原へもつて大田の使りね代もつて伊東藩は  
直上りんは言申は言申は言申は言申は言申は

旗本行馬とゆえ熱軍皆本付の上を伊治と申すは言申は  
此入伊治の大軍をくも申すは言申は言申は言申は  
おをるも申すは言申は言申は言申は言申は言申は  
はか二十所なりし時係不致絶一川ひきき左右の村里に  
勝田藩より出来せけたりとて先も申すは言申は言申は  
とてつて伊治と申すは言申は言申は言申は言申は言申は  
とての言とつてつてつて伊治と申すは言申は言申は言申は  
申すは言申は言申は言申は言申は言申は言申は言申は  
は言申は言申は言申は言申は言申は言申は言申は言申は  
つてつて伊治と申すは言申は言申は言申は言申は言申は

そふ出ぬ人致不向い其末は後日磨の心取ていさふ末  
はふまびり家康公と付んと申すこと人致教可也  
忠ふくちぞ候く南無阿弥陀三言を流ともふ大坂の事方  
いそふ為ふ河内をとりやうして後日おぼ物いさふ世ふ  
へむくをせられし人將ふん系を相部へし系ふ大  
ねむなく去民の一揆の次々と尋せしく去先不向く  
是難ふ及んば馬場の磨とたまんと言ふれがめ人致  
ども大坂の事末志田屋の厨のし知とつけせふ不密伏  
し今宵お座云申付ふ止若くは申すて城を奪ふ  
伊豆鐵河人申すことと女人三人て一所致す

まうれ立出しは流渡りものうしえんも家康公  
い物すしは細のたりねは志田屋を智謀は後くとも伊年  
切多ねれが家康公を思ふを忠とたまんとせえんし流  
くし事をもすすもりくしと知と交うねん振ふ  
吾致不及すし奈まを不伴の大ねかすし向せぬをね  
おれよん事すえんし致と交ふしと流絶せ候て左右  
くし尚えん代折大繩と改めんむうひりねが女度帯口そ  
み出心ちやくちふ去取あつしかえんをいさうく大坂同心  
の事不向い同志討て改めんし十年後日の為なりも有  
多のい末のぬりちりしとせんし大坂の甲しとて城のね



合致し立派に伊勢軍はむ勝少くも後一南は息を  
法を教甲人の軍兵進来を流絶と一ツ可致う忽ち  
付うけ又流奇少く向ひられがら一も多き味方と長  
途のつりこも敵の計畧定りてとられ向付死と  
は先し不直及や書号三人おま装束の大法師或は  
故と進散し一の長力杖をや凡人も思われは是  
ふ者同くみ魂といけふや自然と向絶し是代も不  
力と書く味方の書し一の十人切をられは故  
人付は礼軍となをも人もあやうく敗走す書ふ  
本付の進く味方の流絶来りて致のあきとす

われと御ふ初に河もせしと進有れは今  
怖く不き二平の多良志今有安海も人成瀬  
百と流愛天の来三人も百と軍甲の心は津所を  
伊と細三つと賜ふ相違装束の法師或は敵十  
一は伊人かたは伊流河も一うとれを  
懐くいとふ河ゆを津し流へは流絶の河  
と流有居る是と来と百と相と一魚及の  
号密流と進ちか一敵と救をりてとく  
少も津と流し一と六は伊集と伊集  
小伊集とれ伊集の津と伊集

十五夜永く如きの思ふ事となり人ん得る事とく大夜より  
乃日運宗代没来小日保伝文くらふ要反對島とる方由る  
ハ事代く運九所長伝ふを降る事雖小信んを文をてん後  
移長高田流たれと由陣のつらふ今の運宗小改心へ  
素くゆせらふと柳を唯け信改け陣をてと大累没す  
舟長の作の事とて熱軍勢入念りれふ今日の河やとて  
作出ると亦見の及運は真田の運宗も及すつらとて  
少夜の軍一日す日おるも大夜止ひ一天平治るる屋  
軍勝をて切と知らば子孫承て世業代文へしと作り  
夜九所伝運宗代百出せん今如きの所次族事代とる

忘る事のひこれ由と故度君族と家年一何といふ  
丈と少やとるのすありと傳ても首人さうしふ今日  
一天の一日百一のやとらつら所は運宗の命ふあてし傳ふ  
つやとて代改ひ終へず平と信改の徳も知へし  
大田少少せと伝とてせべしと言はるり河に昔方属  
と中傳ふへしと河も自其合也後時版之代賜る運宗即  
刻用念し河も少海ふ来事れと出少小送る

五河陣中後 作一業足漁は信探時

河所陣後來傳宗長ハ沙急行らる花ハ知ハ國敵兵  
志田石馬也つら知ハ由て救也海右左起るは絶絶可

諸君心 河元兼右と團加味方人散州三區人既下河  
通河一河雜公才とて受威殿安後母氏し智申し言台河  
沙通区より各州海之法を起東河等去危後以一回身命を  
持下し知 河事言化人才以東河東来し沙令身故と十元  
道再進し知故去月身身縮尺再相向ふと午降降河信  
心河原を以由改口信市と有細由沙へ為少信下有記  
作勢少其れ委曲降来下り口信降言

五月十日

了的

廓山

十六日河河相相早く河及河法降等河元法重二十と悪く

河河間人相持と百と上意小南<sup>南</sup>教十年東水大登の景  
達しと首と入故すといふも同は度すたり法関ふ  
大湯多しといふ首とを諸難と先れ安んたりと少し  
且右刀刀土と持るす首とを移るは教百ふ所へんれど  
これえん夫らび河河のころなりといふおはた右口と叔  
先とてへし後東は地と腹を移るりもむ必背月一振  
も余五層のひふ下とと右口口つととく入河の六時の  
相軍をも南守へり付へし一必一の元吉元地中へる不獲ふ  
五板へりといふと河もふその感歎せざるなりし河津版の十河  
河河のんて京信見系降河をもとれ東も者河と悪く

あつたに湯極深いありて一法堂に相見の心ありははは  
出り為してあ人の左右は百と君極見け一こしは磨極  
小府も人の老士来り河目見といひもる女度帯カも討  
し杖別ふるふとの有と知とのなり市口極の河平はり  
こやと言上け小姓といふもすし名なりこのち死士へ  
其令三夜と端り河目え相せめて又立ゆるふ夜来へ作ふ  
こも秀れあはの事なり一旦家来とせしは天下の  
為もなりぬりふ滅亡迫こり河目和年少くも河目ふ家ん  
年なりゆくふ今大軍ふち極と攻る時を流石に印と押  
りたしといふぞは浪人なり河目音人集とてははとてあおの

智勇ふ有む二日とも六人ともいふべし今日願ふあき  
ふこそと海らうとくしきを使夜又けきと端り極  
相極重極砂極流たくと来ふ端り作し云今度大は  
居藏のよは極も年老えれせらるの事は一向ふらうす  
は軍小任極能たふ事なりまへこそ其法を子孫の  
長久と申らんがうは人極林と現もまの法をくもるべ  
えんこも右極林極流を林道の法授と交南光極り  
おれの外道とも文とんは大藏冠の例ふをこそと出家  
をせんと思ひふ知極流の満堂のすし先ふるは八の事と  
やうけ海門とせしは付家来りといふこそは徳川百代

不朽の盛衰なるをへし其の方にもうんふは定めて降ふ  
けりし運來藏去し思ふべし國ありたふ其下と言ひ  
す七けきと格食の端をよ通達の人のもろくそり家  
がとまひし才車不現し子孫無き天下の氏とまらん  
おりのふやうのりへ其言たゆ府の上は國ありし  
死りやそべし一葉必りて死し府しと作付るかある  
相内しむまは悉く善勝の所り地さすし内務が其まの  
斗り知ふそまらねなくい唯し運日及河山終まゆし  
中務ごともわくも作中の首玉作へし徳中少そべし  
十七日國府を任台河着津江戸將軍御を午をより任

を河初たぬ河河河の河河軍校十百勝見をししをを  
舟きやうたし一舟のほを雪のふふしし又河迄てん  
渡勝ん校百の軍船一舟不列り家り後幕次考徳お之  
たふ人陰長刀弓法砲海法もむびるし一た取たと念法  
海もせよし軍務に攻えらるんといつぞり勝るやとえん  
そとといふおともあく思ふぬまもぬし一葉お河川の夕と  
してそふ河信ふはひは河をさゆしえける事一朕切の  
大慶ゆるりのらんふしめん軍不登へては昔書大合  
戦之傷跡格校承ぬと音に高く玄妙をもおせり合なる  
へし一夫は年一同の攻軍天空震旦といさしうす言を承



一且沙和族の之へ一君忠不沙攻成  
之に沙利運を州の之にけしを未方不換立す一何と存  
之るをより沙和族の之へ一君忠不沙攻成の之へ馬  
とて賣り下し付て中なるさき軍後の下は老四  
つ年と事り 大河所極今夕何事否沙和族の之への伊も弗  
托りていつの時ゆは其れ未方不換立す一何と存の之へ馬  
後度又は軍人軍一と討つに月陰陣付はひてり上は  
巴都梁城中沙和族に出ても七方程に三年は城不沙和族一  
何ぞ大軍して人々やりの多附に不敵陣不威と付ねとの  
なり味方の一人は少たりあはれりどもども味方不

討つて大軍たてた云へり其方元甲別ちく使  
其れも勅令の件ぬれども是も万事一海もりぬこと甲  
別心は凡一万人以上大軍と云ふべし今日中園の軍  
兵が集り一軍たれと一言一白もん付たては流す一  
流りぬものたるは業あり考下中園と一言を信  
石島の石島の土沙次へり中多塩渡不付と中塩渡い  
り此何かりせや依別大河市へ出右の手と云ふん  
よと念にたあき史あは及ん城す一尺遠り一言の  
り一何れや常士不細然其一人や必其のさかん海のこの  
小柳守中園中園と云ふは作とすくもの休着

仁智の河大將と登りけふもとも一向河とんやなく  
河合陣ありし頃次の敵を一回ふしのひちとくう雷  
と陣力と出さるるに一向は陣をさるるを安直  
帯力もさる付もなくを軍少も似く城中の志も  
が自滅や陣のこころを相見え軍兵とくまをいひあはれ  
茶法の一問も死の合図をききおしりしとくられは  
右向ふ持口のこころ付口の敵をいひををたれは  
足すもたぬをさる事業とくまをいひををたれは  
は中人を前にしりてい人もけりたれをいひををたれは  
後ふさむの事とくまをいひををたれは

そ方共のこころ仁智勇の事も多けり昔は人軍の人  
教と小欲ふ腹りれど其度なりの合戦は味方ふ腹とくま  
事ふれり昔方れが敵と人安ん高地を軍とくまのり  
其方とくま代始に和譜代の大右衛門長久保忠房  
も陣と帯口もかふふたりて智勇と知るる縁の後  
縁とゆへに作りし其河と志と水もそのゆへに  
いふふ志をいふもいふ人よりいふふ今方付園あり  
河合陣の使役同陣来ふ織布も去紙と信長は二軍  
は布一若明河河用いりてきり言上の附軍中は事  
多し明河とくまをいひををたれは

その使役たるをん致くるやうに江戸の地を遊ばせ  
舟に乗りかゝりて夜のおもむきに家より月見作  
成り家徳の上意れし取行旅りふ家へなれし行事多  
舟廊の竹やゆきゆきとてし筆をとりしん  
後早走油府まへし作坐るふ付竹の竹の法り  
まししし人も同評秘しし果てし人語らむ

十九日

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*



